

第4回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 開催時間 平成24年7月12日(木) 午後3時30分～午後5時10分
- 2 開催場所 ツインメッセ静岡中央棟4階 406・407 会議室
- 3 出席者 **【委員】**
二渡委員、本多委員、中村委員、太田委員、藤田委員、鶴田委員、秋元委員、
内海委員(欠席 杉山委員、松永委員、山梨委員、実石委員)
【事務局】
三輪地域産業課長、森参事、吉川統括、河合統括、頭師副主幹、石塚副主幹、
浅沼副主幹、佐藤副主幹、望月主査、山田主任主事、澤野主任主事、近藤主事
- 4 傍聴者 一般傍聴者 なし、新聞記者 なし
- 5 開 会 三輪地域産業課長
- 6 あいさつ 二渡会長

本日は、足元が悪い中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。先ほどの課長のご挨拶にもありましたように、皆様方にご審議いただきました基本計画の策定案を5月14日に本多副会長とともに、大場経済局長へ答申をいたしました。そして、昨日の新聞であります、7月10日のこととして、市長がものづくり産業振興基本計画の策定を定例記者会見において公表したという記事が掲載されておりました。それをご覧になられた方もあろうかと思いますが、今回のものづくり産業振興基本計画の策定という結果は、これまでの間、皆様にご審議いただいた一つの成果でありまして、そのご尽力に会長として厚くお礼を申し上げたいと思います。それでは、議事の審議に入りたいと思いますが、その前に会議の傍聴及び公開について、確認をさせていただきます。静岡市では附属機関等の設置及び運営に関する指針に基づきまして、附属機関の会議は原則公開となっております。今回の会議につきましては、非公開事由となる事項を含んでおりませんので、公開としてよろしいでしょうか。

【各委員】 了承

【二渡会長】

それでは、公開といたします。なお、非公開とすべき事項が生じましたら、その都度、その旨を決めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。また、会議録についても、公開となりますので、事務局で会議録を作成した後、会長である私と、もう1人の委員の方にご署名をいただき、公開の手続きをいたしたいと思っております。本日の会議録署名人は、中村委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

【中村委員】

わかりました。

【二渡会長】

それでは、事務局にお願いしますが、傍聴人があるようでしたら、ご入室いただいでください。

(事務局：森地域産業課参事)

只今のところ、傍聴希望者はありません。会議中に傍聴人が来られましたら、随時、ご入室いただくよう対応を図ります。

【二渡会長】

わかりました。よろしくお願ひいたします。それでは、1つ目の議事に移ります。静岡市ものづくり産業振興基本計画の進捗管理に関しまして、事務局からご説明をお願ひいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

事務局から、ものづくり産業振興基本計画の進捗管理に関する皆様からのご意見をご報告させていただく前に、事務局案について2か所の修正をお願ひしたいと思います。本日、改めて皆様のお手元に配らせていただきましたA3横版の資料をご覧いただきたいと思ひます。まず、1か所目ではありますが、進捗管理案の1頁下表の左側にある項目の中段アスタリスクにあります市議会経済委員会への報告を6月29日から9月に、また、同じ個所のものづくり基本計画策定日を7月1日から7月4日に修正していただきたいと思ひます。次いで、2か所目ではありますが、3頁中段の各部会ものづくり審議会の5番目にあります伝統工芸創造部会の部会員を二渡委員、中村委員から、実石委員、杉山委員に変更をお願ひいたします。これを受けまして、4頁右側の表中の部会員名と5頁右端下段の部会員名の伝統工芸創造部会に関わる部会員のお名前を実石委員と杉山委員に併せて修正していただきたいと思ひます。また、二渡会長と中村委員のお二方におかれましては、この伝統工芸創造部会のアシスタントとして、本多副会長をはじめ、実石委員と杉山委員へのご支援にご尽力をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。なお、本日、実石委員と杉山委員は所用により欠席されておりますが、事務局でこの件をお二方に確認したところ、杉山委員からはご承諾をいただいでしております。また、実石委員におかれましては、海外に出張中とのことから、帰国後に当課の三輪地域産業課長から事情をご説明申し上げまして、ご承諾をいただくよう努めてまいりたいと考えております。進捗管理案に対する皆様のご意見などをご報告させていただく前に、今回の進捗管理案の概要を簡単にご説明申し上げます。基本計画を構成する事業については、目標の達成に向けて49の事業が掲載されております。この49事業については、地域産業課のほか、産業政策課、商業労政課、観光・シティプロモーション課、学校教育課で実施する事業であり、当課の担当はその内の22事業になります。まず、全49事業の進捗管理にあたっては、1頁の各種事業進捗管理票を使用し、計画期間の平成24年度から平成26年度までの3か年度を1シートで管理できる様式となっております。この管理票では、予算額、決算額のほか、事業評価に関する項目として、事業結果や次年度に向けた改善点等を記載するなど、事業成果の創出を念頭に置いた形式となっております。それから、地域産業課が担当する22事業に関しては、先ほどの進捗管理票に加え、今年度、試行的に進める進捗管理方法として、22事業を6つの部会に割り振り、それぞれの部会を中心に進捗管理に取り組みればと考えております。この点については、基本計画が3年間という比較的短い期間であるため、この間に掲載した事業の成果創出を今以上に引き上げるとともに、次期基本計画案の策定に向けた準備への取り組みを進めておく必要が前提としてあります。従来どおり、それぞれの事業において、進捗

管理を粛々と進めていくことは、大変重要なことと考えておりますが、事業の成果創出が計画目標の達成に結び付いていく経緯についても、同様に大切なことと考えております。このことから、連携や協調をキーワードとして、関連性の高い事業を取りまとめ、部会という審議会委員と当課職員で構成する新たな組織建てのもとで、効果的な進捗管理を進めていければと考えております。具体的な6つの部会の構成は、調査研究部会、技術者養成部会、販路開拓部会、商品開発部会、伝統工芸創造部会、PR促進部会になります。また、各々のグループ化に伴う視点及び着眼としましては、調査研究部会が将来を見通すための基礎資料を整備するとともに、次期ものづくり産業振興基本計画の素案作成に向けた取り組みにあります。次いで、技術者養成部会については、本市ものづくり産業に係る技術力の向上に関して、ライセンスの取得を念頭においた事業への取り組みとしております。そして、販路開拓部会に関しましては、伝統工芸とホビーの互恵的なプロモーションの推進と販路の拡張に向けた事業への取り組みとしております。さらに、商品開発部会では、新商品の開発から販売に関して、相談、助言、出展販売に係る一貫性を帯びた事業への取り組みとなっております。また、伝統工芸創造部会については、若手職人と新産業開発振興機構のコラボレーションのもと、優れた技術者の研鑽を含め、ブランド化を念頭に置いた伝統工芸の新展開に向けた事業への取り組みとしています。最後に、PR促進部会については、駿府匠宿体験事業や静岡職人めぐりマップの活用のほか、工場等の現場見学会を通じて、伝統工芸を含むものづくり産業の体験的PR活動への取り組みとなっております。このような各部会の運営については、部会毎の特色を考慮する必要があるかと思いますが、連携と協調を旨として部会員と事務方間で連絡調整を図っていただき、より良い事業成果の創出に向けてご尽力をいただければと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。それでは、進捗管理案に対する委員の皆様のご意見等をご報告させていただきます。

まず、松永委員からは、進捗管理票とPDCAサイクルの2点についてご意見をいただきました。意見詳細ではありますが、事業毎に管理票を用いた進捗管理は明確で分かりやすいと思いますという点と、ポジティブなPDCAサイクル観に基づいて、審議会委員と地域産業課と一緒に進捗管理などに携わることは良い試みだと考えますし、何か新しい行政の姿勢が出てくるのではないかと楽しみになりますというご意見でありました。

次に、秋元委員からは、同じく進捗管理票とPDCAサイクルの2点についてご意見をいただきました。具体的には、事業毎の一連の取り組みが把握でき、かつ評価項目を設けることで、次の事業活動に活かすことが可能となる管理票になっていると思います。また、それぞれの事業関係者から出される意見などを聴取することが可能であれば、次年度における事業の引き上げに向けた貴重な参考資料になるのではないかと感じましたというご意見でありました。一方、PDCAサイクルについては、問題をマイナスと捉えるのではなく、より良い方向性を見据えてポジティブな視点から眺め、また、物事を考え、具体的な行動に移していく姿勢は大変良い試みだと思います。私自身も、今後のさまざまな活動への取り組みにあたり、どのようにすれば現状を改善し、より良い方向性と結果が得られるのかをポジティブな志向のもとで努めていきたいと思っております。

続いて、鶴田委員からは試行的取り組み案と進捗管理全般に関するご意見をいただきました。試行的取り組み案ではありますが、地域産業課が担当する22事業について、試行的に6つの部会を作って進捗管理に取り組むことは、個々の事業が部会という場で具体的に検討されるため、事業の進捗度や成果などが審議会と地域産業課の間において共有化が図れるように思えます。このことから、地域産業課の担当職員の方々と前向きに進捗管理を推進していきたいと思っております。また、

部会の運営に際して、地域産業課からの情報提供については、分かりやすさを心掛けて対応にあたってほしいと思いますという内容のものでありました。2点目の進捗管理全般については、個別の事業毎に進捗管理を進めることで、事業成果等の把握が行いやすくなるとともに、総体的な進捗の程度も容易に把握できるように思えます。そして、資料に記載されたポジティブなPDCAサイクルと4つのエンジンを参照しながら取り組みを進め、可能な限り事業成果が出せるよう、地域産業課の方々と協力して進めていきたいと考えておりますというご意見でありました。

それから、内海委員からは、初めての試みですが、事業を進展させるために、前向きかつ精力的に取り組んでいきたいという進捗管理全般に関するご意見をいただきました。

最後に、太田委員からは、ご意見とご質問をいただきました。進捗管理案全般に関して、一連の資料を興味深く読みました。まずは、この枠組みで取り組んでみてはどうかと思いますとのことご意見でありました。次に、試行的案に関するご質問として、試案の中で繰り返し記されている相乗的效果や新しい効果の創出が意味する内容が十分に把握できませんでした。具体的にその効果には、どのような内容を含んでいるのでしょうか。また、本案を実施することにより、担当部局の取り組みや審議会での議論に寄与する点はあると考えますが、ポジティブなPDCAサイクルの中で検討議論される事柄や改善点として出てくる内容には、先々の政策立案や市のビジョンにも寄与するものが含まれるものと考えられます。場合によっては、市内の関係事業者にとって参考になる議論も出てくるのではないかと考えます。そのような事柄は、具体的な数値等の効果で把握できるものではなく、今後への期待に留まるものと思われませんが、このような事柄も期待する効果の中に含んでいると考えてよいのでしょうかというご質問でありました。この点に関する回答としまして、相乗的效果や新しい効果の創出については、現状、基本計画に掲げた各事業の成果目標を超えた部分と想定しております。地域産業課の22事業における部会を通じた試みについては、それぞれの事業が関連し、連携や協調のもとで、成果目標を超える効果が期待されるものと見込んで構成してあるため、結果的に政策立案や市のビジョンに加え、市内関係事業者に提供されるべき情報などを含めて、今後期待される効果の一つとして捉えることができるものと考えております。次のご質問であります、必要に応じて、部会では市内事業者や各種の機関などに聞き取り調査等を行うことも検討しているのではないかと考えますが、いかがでしょうか。また、このようなことも視野に入れているのでしょうか、若しくは任意の取組みになるので難しいのでしょうかというお尋ねであります。この点について、各部会で検討した結果、必要に応じて、関係機関等への聞き取り調査を実施することは構わないと思います。地域産業課としましても、そのような意向が固まれば、聞き取り先等との調整などを行い、部会活動を積極的に支援していきたいと考えております。ただし、公の審議会の開催とは異なり、個別の部会が任意で取り組む調査活動については、交通費等の費用負担に加え、移動の際などにおけるケガや事故等の補償などを事前に十分検討しておく必要があるものと考えております。

【二渡会長】

ありがとうございました。只今のご説明に関しまして、皆様から事務局に対してのご意見やご質問などのほか、委員同士でも意見交換を行えればと思いますが、いかがでしょうか。まずは、会長として一言申し上げますと、委員の皆様のご意見等をお聞きする中では、皆様は前向きに進捗管理と部会を受け止めておられるとともに、これからの取り組みに尽力しようという意気込みも併せて持たれているような印象を持ちました。それから、事務局案を眺めると、PDCAサイクルを導入して事業の進捗管理を図ることに加え、行政だけでなく、審議会委員と行政の意見

交流をもとに次の段階につなげていこうとするフォローアップになっております。つまり、事業の進捗管理を立体的かつ戦略的に構築した管理手法のようにも捉えられるかと思いますが、皆様いかがでしょうか。

【太田委員】

聞き取り調査については、以前に地域産業課の方と市内の中小企業を回った時のことですが、ポジティブなことであれ、ネガティブなことであれ、事業者は市に対してお伝えしたいことが山積しているような印象を受けたことに基づいて記載させていただきました。現場や実態という点では、我々よりも事業者の方々にお話をお聞きしないと分からない部分があると思いますので、事業の進捗管理を図り、より高い事業成果を求めていく中では、部会の役割として、意見交換などを行っても良いのではないかと考えております。

【二渡会長】

私も太田委員のご意見に賛成します。調査に関しましては、地域内の実態把握と地域間競争等に関連して、他の地域を調査するという2系列の考え方を対して対応を図っていくことが必要かと思いますが、その両面を指しているご意見だと思いますが、いかがでしょうか。

【太田委員】

そのとおりであります。また、市内は別として、市外の実態調査にあつては、相応の費用を要することも考えなければならないと思います。

【二渡会長】

必要な調査を実施するというのであれば、ある程度の費用は致し方ないと思いますが。

【太田委員】

会長からそのように言っていただけますと力強く思います。事業者の方々との意見交換は、連携や協調の第一歩にもなりますし、双方が学ぶ絶好の機会になると思いますので、可能であれば、取り組みたいと考えております。

【二渡会長】

例えば、伝統工芸に関して、地域内で取り組んでいても、現状の成果が一定の限界にあるとすれば、地域外での多様な取り組み等を学び、それを地域内の方々に還元して新たな伝統工芸品の創作を模索することも可能ではないでしょうか。伝統工芸については、このような調査が必要ではないかと思えますね。

【本多副会長】

私の伝統工芸創造部会では、現役で活躍されている方が比較的多いため、現場等の実態に関して、根本的なご意見などを収集できると思います。ただ、地域の実態調査という点では、それに要する時間の捻出など、実際に対応を図ることは難しいように思えます。それでも、最初から出来ないという結論を出すのではなく、事務局と相談しながら、取り組めるところから粛々と進めていく必要はあると思っております。実質的には、部会を月に1回程度開催しなければならない

のかなと考えております。

【二渡会長】

調査業務の実施にあたっては、コストパフォーマンスが上がるような人選等を考えればいいと思いますし、必要な実態調査等は取り組まなければならないと思います。それよりも、お困りになられている方々のために、部会単位等で調査し、議論をし、何らかの新たな解決策を導き出そうとしている訳ですから、時間に余裕がないことも理解できますが、是非とも前向きなご対応をお願いしたいと思います。審議会という附属機関の協力を得られるこの機会に、静岡市の伝統工芸の息を吹き返すという強い気概をお持ちになって取り組んでほしいと思います。

【本多副会長】

分かりました。

【二渡会長】

その点は結局のところ、熱意であり、自助努力にあると思いますね。大いに期待しております。

【本多副会長】

努力したいと思います。よろしく願いいたします。

【中村委員】

とにかく、今回示されたプランで取り組みを進め、PDCAサイクルで具体個別に実施していく中で実質的なものに育っていくものと考えますし、併せて期待を寄せているところであります。市の組織や施策などは、民間企業のそれと異なりまして、非常に永続性を伴うものであるため、場合によっては10年単位で事業が行われているケースがあります。今回のものづくり基本計画では、計画期間を比較的短期間の3か年度と設定して、事業毎に進捗管理を進めていく訳ですが、永続性と相反する計画期間との間での整合性をどのように図っていくのかという懸念が新たに生じるようにも思えます。これは、私が静岡市の事業仕分けに携わった経験から申し上げることですが、行政の組織や事業などは硬直化しやすい傾向があります。この点に関しては、大きく2つの側面があるように思えるのですが、ある時代には非常に合理的な事業展開であったり、或いは、組織形態であったりしますが、社会情勢や経済環境等の変化により、事業が有する元々の機能を十分に発揮できないばかりか、場合によっては、事態を悪化させることがあります。このことから、行政が取り組む事業などでは、自律的に調整を図る機能が極めて脆弱であることに加え、これを裏付ける評価の仕組みも十分に設けられていないように思えます。本来、事業対象の満足度を最大限に高めていくためには、社会の変容等とともに、事業自体もその変化に応じて対応していく必要があろうかと思えます。今回の事業の進捗管理では、その部分を念頭に置き、PDCAサイクルのもとで、変化を試みようとしている点が特徴であり、苦勞して工夫を施した点がそこに見えます。また、このような変化への対応を図り、常に最良のサービスを提供しようとする仕組みが、ものづくりの基本計画だけに留まるのではなく、他部署へも伝播し、行政が機動的かつ柔軟な対応を日常的に執れるように変わってほしいと思いますね。

【二渡会長】

中村委員のご意見に関連して、企業で取り組んだ経験から若干お話を申し上げますと、ある基準や制度を新たに設定しようとした場合、関係者との議論や検証などを幾重にも取り組んで創り上げていきますが、残念なことに作ったそのときから陳腐化が進行していきます。出来れば、その制度そのものが自動的に自律性を発揮して、環境変化の外的要因などにタイムリーにマッチすればいいのですが、それは無理なお話となる訳であります。結局のところ、今回のプランに組み込まれたPDCAサイクルのもとで、実務的な取り組みを粛々と進めていくしかないように思えます。一方、市役所の業務は広範に及んでいますので、全てにPDCAサイクルのような自律的補正機能を付加させることは難しい側面もあろうかと思いますが、出来ることなら、取り組める分野や施策等から有効性を図りつつ、導入を試みてもいいのではないかと思います。

【中村委員】

もう1点、行政が取り組む事業の重要な性格として、何らかの課題に対峙する市民や事業者にとって、きっかけとなるような種を提供する要素があるように思えます。決して、社会生活全般に関して、最初から最後までを行政が担う必要はないし、また、それは出来ないと思っています。ものづくりの基本計画でも、それは同様であって、蒔いた種をきっかけとさせるためには、いかなるタイミングで、どのような種を蒔くのかということを考えていなければ取り組めないことであります。つまり、常に変化に対する感覚を研ぎ澄まし、迅速に適切な種を準備して、最良の時期にそれを蒔くことが大切になってくる訳であります。

【二渡会長】

フォローアップを見ますと、部会内はもとより、部会間でも情報の共有化を図り、相乗的効果を見出していこうと読み取れますが、そのような考え方も含まれていると理解してもよろしいのでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

そのとおりであります。例えば、私が担当させていただく調査研究部会では、5つの事業を根拠として調査研究を進めていきますが、そこで得られた知見等に関しては、他の部会への情報提供を含めるとともに、場合によっては産業界にもお知らせしていこうとも考えております。情報を提供した先では、それらを一つの検討素材と捉えていただきまして、部会等での議論に資していただければと考えております。

【二渡会長】

今、お話いただいたかたちで部会での議論や運営が進むことにより、より多くの方々の連携や協調によって、これまでに見られなかった知恵や考え方などが、新しく生み出されていくことが想定されます。とにかく、各部会に関する部会員、そして事務担当も日常のお仕事でお忙しいとは思いますが、PDCAサイクルを中心にそれぞれご尽力いただければと思います。

【秋元委員】

PDCAサイクルに関しまして、意見を出させていただきましたが、本日の議論をお聞きし、改めて情報の共有化が重要であると認識を深めました。また、私たち審議会委員の任期は2年と

なっていますが、この基本計画はものづくり条例のもとで、ものづくり産業の振興発展を目的として、これからも継続して取り組まれていくと思いますので、次の審議会への継承も重要な事項として考えていかなければならないと実感しております。

【二渡会長】

事務局に一つお尋ねしますが、高い志をお持ちの学生委員の方々は、大学を卒業された以降でも、審議会の委員であると解釈していいのでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

大学を卒業された以降においても、任期中は審議会委員として、ご活躍をいただきたいと考えております。

【二渡会長】

それは安心しました。大学を卒業されたら、審議会委員でなくなるのではないかと懸念しておりましたので。学生委員の方々から、情報の共有化に関してコメントをいただきましたが、熱意と意欲を持つ学生委員であると見込んで、一つお願いがあります。ここに集う委員の皆様は、日頃から産業界などで精力的に活躍されておりますので、情報の共有化に際しては、自己研鑽が前提として必要になろうかと思えます。学生委員のお二方には大いに期待しておりますので、是非とも頑張ってくださいと思います。よろしく申し上げます。

【秋元委員】

分かりました。頑張ります。

【内海委員】

分かりました。ありがとうございます。PDCAサイクルは、とかく民間企業において多用されている管理手法のように理解しておりましたが、このように行政の事業管理等への導入を図り、尚かつポジティブな考え方を前提として、サイクルの循環を試みていこうとする点は、評価したいと思えますし、事業の成果にも期待を寄せたいと思っております。

【二渡会長】

今、PDCA サイクルについて、民間企業で多く用いられているというお話がありましたが、実際の現場における取り組みというものは、いかがなものなのでしょうか。

【本多副会長】

基本的には、常日頃から取り組んでいる作業工程などを言葉や図に表したものが、PDCA サイクルであるように捉えております。何か、新しい取り組みのように見えますが、これ自体、民間企業では通常取り組んでいるものであり、特に目新しいものではないように感じております。民間企業では当たり前のことと思えますが。

【二渡会長】

なるほど、そのような見方もありますね。他にご意見はありますでしょうか。

【太田委員】

民間企業にとっては、PDCAサイクルが当たり前というご意見は理解できますが、イノベーションを創出する政策展開を考えますと、本当にこれだけで良いのかと若干の疑問を持つところもあります。その点については、特にイノベーションの阻害要因について、このPDCAサイクルをもって打破することが可能か否かということでもあります。このようなPDCAサイクルには、振り返り等の学習要素が多分に含まれているため、先ほど、中村委員が言われた柔軟な制度運営という観点にも通じるのではないかと感じておりますが、実際のパフォーマンスという結果はいかがなものかという認識を持っております。つまり、政策的なイノベーションが求められる中、本当にポジティブなPDCAサイクルで実現が可能なのかということでもあります。

【二渡会長】

PDCAサイクルについて、その背景等を含めて若干お話ししたいと思います。PDCAサイクルは、元々アメリカで生まれたもので、品質のばらつきを無くす品質管理を基礎として、デミング博士を中心としたグループの研究成果に由来する技法であり、戦後日本の産業界でもはやされたものであります。例えば、ある製品を100個つくった場合、必ずその寸法に誤差が生じることになります。デミングサイクルでは、その原因を究明し、誤差を極力ゼロに近付ける改善を図ることで、効率的な大量生産を可能にした訳であります。終戦後は、プラン、ドゥ、チェックの後に改良を意味するインプルーブメントが付加されておりましたが、時間の経過とともに、改良が実行のアクトに変容し、今日のPDCAサイクルとなっております。当時、この技法を積極的に取り入れた産業界は、飛躍的に良質な製品の大量生産に成功し、その結果、メイドインジャパンという世界的に評価される付加価値を獲得するとともに、その後においては、本多副会長が言われたように、民間企業にとって、PDCAサイクルは至極当然の取り組みとして定着化が図られました。一方、事業を管理するプランとしては、平時とともに、社会情勢の変革等に関する不測の事態への対応を図る非常時のコンティンジェンシープランが必要になります。今回のものづくり基本計画及び部会運営に関する取り組みでは、非常事態に備える側面に脆弱性を認めませんが、これまで余り見られることのなかった行政の事業に対して、PDCAサイクルという管理技法とそれを実務的に取り組む部会とを組み合わせる導入を図ったことは、事務局が苦心したところなのではないでしょうか。

【藤田委員】

基本計画と部会を中心とした各種の取り組みは、非常に意味あるものと感じています。そこに加える視点としては、このような取り組みによる成果を必要としている企業や業界に、どのようなかたちでアウトプットさせていくことが出来るのかという点が気に掛かります。より多くの方々が、知る機会を得て、その成果を広く享受できるような結果に仕上げたいと思います。

【鶴田委員】

市の取り組みには縦割りのイメージが強くあるので、キーワードとしての連携や協調を旨として、基本計画と部会運営が取り組まれることで、横のつながりへと発展し、より意義深い事業成果の創出に結び付けていってほしいと思います。それから、進捗管理票の中で予算額がゼロとして記載されているものは、今年度の予算が無いという意味なのではないでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

そのとおりであります。これは、基本計画の策定作業と予算の編成作業が、その時期において、上手くかみ合わなかったことから、事業には取り組むものの、それに資する予算は残念ながら無いという状況を示しております。それでも、取り組めることはありますので、出来る範囲で粛々と事業を進めていきたいと考えております。

【二渡会長】

皆様、他にご意見はありますか。

【中村委員】

PDCA サイクルは、自律的な取り組みを進めていかないと倒れてしまいます。特に、最終過程のアクションでは、自律的な補正や修正などを伴う必要があります。いかに、次の段階へつなげていくのか、また、事業の内容を濃くしていけるのかということだと思います。そのような手直しを施すことについては、誰でも、どこの企業でも日常的に取り組んでいることですので、余り難しく考え込む必要はないように思えることを、補足として申し上げておきたいと思います。

【二渡会長】

もう一つ、事務局が苦心した点としては、PDCAサイクルという文言の採用だと思います。この基本計画に登載された事業の実施にあたっては、部会のメンバーをはじめ、多くの方々に関わりを持たれるのではないかと思います。そこで、一般に広く民間企業で採用されている事業管理と称しても、共通認識を得られない場合もあるため、事務局はPDCA サイクルという誰にも一応に理解していただける用語を使用したのではないかと推察しております。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

そのようにご理解いただけますと助かります。ありがとうございます。

【二渡会長】

それでは、ご意見も出揃ったところかと思えます。ものづくり基本計画に登載された事業については、各種事業進捗管理票をもとに、また、地域産業課の22事業に関しては、進捗管理票に加えて、部会運営の中で進捗管理を図っていくということで、皆様、よろしいでしょうか。

【各委員】 了承

【二渡会長】

ありがとうございます。それでは、お決めいただいた方法で進捗管理を進めていきたいと思えます。次に、今後のスケジュールであります。事務局からの説明をお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

今後のスケジュールについては、本日お決めいただいた進捗管理資料にもありますように、11月、或いは12月に審議会を開催し、進捗管理の途中経過等をご報告できればと考えております。それから、関連事項としまして、今後、各部会において主体的に連携と協調を基本に進めていた

だいて、部会運営を展開し、具体的な成果の創出に向けてご尽力いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【二渡会長】

ありがとうございました。今の事務局の説明に対しまして、何かございますか。

【太田委員】

これから、部会運営が開始されると考えてよろしいでしょうか。

【二渡会長】

事務局から、その点を詳しくご説明ください。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

本日の資料にありますように、部会の開催については、部会長と事務担当者が中心となりまして、担当する事業を勘案しながら、適宜日時をお決めいただいた上で、本日からでも協議検討を始めていただければと考えております。

【二渡会長】

本日は、事務局から各部会の具体的な開催日時が示されるのではなく、個別に部会長と事務担当が協議して、開催日時等を決めていくということですね。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

そのとおりであります。よろしく願いいたします。

【二渡会長】

この後は、事務連絡になりますが、何かありましたら事務局からお話ください。

(事務局：三輪地域産業課長)

特に事務連絡はございませんので、このまま審議会を閉会したいと思います。これから、全49事業の進捗管理をはじめ、当課22事業の部会運営による進捗管理を進めていただくこととなりますが、これらは皆様のご理解とご尽力がなければ取り組めないことと認識しております。お忙しいことと存じますが、是非ともご協力をいただきますようお願いを申し上げます。本日のものづくり審議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

本会議録は、平成24年7月12日開催の「第4回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会長 _____

委員 _____